

## 施策の紹介

平成七年に起きた阪神・淡路大震災以降、ボランティアに対する関心は大きな高まりをみせていました。来年は「ボランティア国際年」。これまでの我が国におけるボランティア支援施策を中心に、「ボランティア国際年」に向けた各省庁の取組などを紹介します。

### 警察庁の取組

# 薬物乱用撲滅キャンペーンに活躍するボランティア

「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募  
金運動

この募金運動は、「国連麻薬乱  
用撲滅の十年」の支援を目的とし  
て、官民一体となつた薬物乱用防  
止活動の推進を図るために行われ  
ているものです。(財)麻薬・覚せ  
い剤乱用防止センター(厚生省、  
警察庁共管)が主催し、国連薬物  
統制計画(UNDCP)のほか国

内各団体が協賛、政府の薬物乱用  
対策推進本部、警察庁のほか薬物  
乱用対策関係十四省庁、都道府県  
が後援しています。

「国連麻薬乱用撲滅の十年」は、  
平成二年に開催された国連麻薬特  
別総会で宣言されたもので、一九  
九一～二〇〇〇年の十年間に地球  
上から薬物乱用を一掃しようとい  
うものです。

はもちろんのこと、青少年の健全  
育成とボランティア活動へ積極的  
に参加する意欲の増進を促し、地  
球規模での薬物乱用防止に関する  
理解と認識を高めるとともに、善  
意の浄財を募り、開発途上国など  
地域団体キャンペーンによる店頭  
などへの募金箱の設置のほか、企  
業や官公庁等職場における募金活  
動等となっています。

国際麻薬撲滅デーである六月二  
十六日を中心にして、昨年は全国六百  
六十九か所でヤングボランティア  
など三万八千八百六十人が参加し

を目的としています。

募金活動の形としては、ボラン  
ティアによる街頭キャンペーン、



てキャンペーンが行われ、総額九千万円以上の募金が寄せられました。

「」の募金運動は一九九三年から実施され、昨年度までに、全国から寄せられた募金の中から約三億四百万円（約一千七十五万米ドル）がUNDCPに寄付されており、開発途上国のプロジェクトの活動を支援しています。

現在、我が国は「第三次覚せい

実施され、昨年度までに、全国から寄せられた募金の中から約三億四百万円（約一千七十五万米ドル）がUNDCPに寄付されており、

開発途上国のプロジェクトの活動を支援しています。

「」の背景としては、薬物の危険性、有害性の認識の欠如と罪悪感の希薄化、規範意識の低下が顕著となり、特に青少年の間では薬物使用をファッショングループでとらえる風潮も一部で生じていることが挙げられます。

薬物の需要の根絶を図るためには、社会全体に薬物を拒絶する規範意識が堅持されていることが極めて重要です。このため、警察では、末端乱用者の検挙を徹底するとともに、この運動を通じた広報・啓発活動を活発に展開して、薬物の危険性・有害性についての正しい知識の周知を図り、薬物乱用を拒絶する意識の醸成、維持に努めています。

「」の背景としては、薬物の危険性、有害性の認識の欠如と罪悪感の希薄化、規範意識の低下が顕著となり、特に青少年の間では薬物使用をファッショングループでとらえられる風潮も一部で生じていることが挙げられます。

薬物の需要の根絶を図るためには、社会全体に薬物を拒絶する規範意識が堅持されていることが極めて重要です。このため、警察では、末端乱用者の検挙を徹底するとともに、この運動を通じた広報・啓発活動を活発に展開して、薬物の危険性・有害性についての正しい知識の周知を図り、薬物乱用を拒絶する意識の醸成、維持に努めています。

「」の背景としては、薬物の危険性、有害性の認識の欠如と罪悪感の希薄化、規範意識の低下が顕著となり、特に青少年の間では薬物使用をファッショングループでとらえられる風潮も一部で生じていることが挙げられます。

薬物の需要の根絶を図るためには、社会全体に薬物を拒絶する規範意識が堅持されていることが極めて重要です。このため、警察では、末端乱用者の検挙を徹底するとともに、この運動を通じた広報・啓発活動を活発に展開して、薬物の危険性・有害性についての正しい知識の周知を図り、薬物乱用を拒絶する意識の醸成、維持に努めています。

寄付金については、毎年、この募金活動に積極的に参加した少年少女たちが「民間国連ヤング大使」として、ウイーンのUNDCP事務局へ派遣され、寄付金の贈呈と前年度の支援募金実施報告書の受領をUNDCP事務局長から受けています。

国連に寄付された募金は、開発途上国の薬物乱用防止活動を行っているNGOのプロジェクトを援助するためを使われています。薬物乱用防止教育、代替作物プロジェクト、NGO組織の設立、街頭キャンペーん、啓発資材の作成、研修会の開催、指導者の育成、ストリートチルドレンの保護と援

助、青少年のスポーツ活動への補助等、薬物乱用を許さない、薬物乱用のない社会環境づくりのため

に役立っています。

すでに、百六十四か国、二十三十三のプロジェクトで活用され、全世界的な薬物乱用防止活動のひとつとして大変高い評価を受けおり、主催の（財）麻薬・覚せい

剤乱用防止センターは昨年、第一回国連ウイーン市民社会賞を受賞しました。

薬物問題は、その不正取引が国際的な薬物犯罪組織により国境を越えて行われ、一国のみでは解決できない問題であることから、国連のほかにも国際的枠組みの中で地球規模の重大な問題として、その解決に向けた取組がなされています。

サミットにおいてもしばしば薬物対策に関する国際協力の強化が取り上げられていますが、九州・沖縄サミットでは覚せい剤問題への取組等について合意がなされました。

このように、この活動は、特に薬物乱用の拡大が懸念される少年たちが中心となつてボランティアに参加し、薬物乱用防止を訴えているという点、また、国際的な薬物対策への重要性が強調されています。この活動は、世界中の、集められた寄付金が世界の薬物対策に役立てられているといふ点から大変有意義なものです。